日本プロレタリア音楽家同盟
東京支部 ニュース 第3号

1933.1.1.

東京市
淀橋区上落合町
一丁目四八一 並木方
日本プロレタリア音楽家
同盟 東京支部
発行

五月一日（メーデー）までの東京支部活動プラン

コップ加盟各団体間の第二次革命競争は、終った。

併しながら之が有した
科学的見通に基づく、具体的計画に依る、吾々の任務の遂行
革命的競争に依る運動の努力的遂行
等の意義は、常に吾々に必要である。

特に三月から五月へかけての、プロレタリアートの斗争の周期的高まりの時期に於て、現在、恐慌からの唯一の活路を、広般な、労働者農民を犠牲として、日東洋の覇権の為の強行戦争に求めんとする（実際的には既に始まってゐる）××制の絶対主義的支配が、之に抗して、立ち上らんとする、広般な労働者農民の、一切の活動に対して、暴力的な、積極的な攻撃を加へる事は明白である。

かゝる時期に於て、吾々が、前二回の競争の経験の批判の上に立って、革命的労働者の活動の線に沿って、音楽の面に於て、広般な、労働者、農民、インテリゲンチヤを、吾々の影響下に組織すべき、第三次革命競争に入ることは、特に重大な意義を有するものである。

東京支部は、一月から五月迄の活動プランを左の如く決定した。

各部は、直ちに、之に従って、具体的プランを、設定し、直ちに之を、実践にうつさねばならぬ。

一月 カンパ 三Lデー

第一次世界戦争の真只中に、ドイツの偉大なるプロレタリアートの指導者、カールと、ローザとは、白熱した追跡、逮捕、投獄の真に名状し難い迫害下に、ドイツ社会民主党幹部の公然たる裏切をけって、偉大なる反戦活動を展開した。ドイツプロレタリアートの偉大なる信頼の下に、幾回の投獄に屈せず。

一九一八年大戦は終った。だが残念にも、革命は、ドイツ社会民主党の裏切者の手に横取された。

カールとローザの之に対する斗争は勿論直ちに開始された。

一九一九年に入って彼らに率ひられた労働者の新政府に憤激は、市街戦に迄発展した。かゝる斗争の最中に

一月十五日深夜、リープクネヒト、ルクセンブルグは相ついで、裏切者政府の軍隊に、虐殺された。

かゝる時、ロシアではレーニンは亦、反戦の旗を高くかゝげ、自国並びに全世界の労働者を指導した。

一九一七年三月九日、彼の指導の下に猛烈な反戦活動を続けて居たロシアの労働者は、ツァールの政府を倒した。更に彼の正しい指導の下に、終にも十月革命に成功した。

一月二十一日は、この偉大なる、世界の労働者の指導者レーニンの死んだ日である。

今や正に第二次世界戦争は始まらんとしてゐる。既に東洋に於て、その火ぶたを切った。

吾々は、この偉大なる三人の指導者の教訓の下に、その積極的実践に学んで、反戦活動、反動文化への斗争に断乎として参加しなければならない。

＊上旬に於ける、長野地方巡回、
＊中旬に於ける、新同盟員、及び同盟加入希望者のための短期講習会
＊下旬に於けるプロキノとの共同公演
＊この月、本部より出される機関誌、楽譜出版のための基金募集、宣伝、配布への積極的参加

二月 カンパ 失反斗争、反建国祭斗争、

＊三月の諸カンパに対する救援活動、アヂプロ活動
＊三月の音楽会に対する準備活動

三月 カンパ

カールマルクス五十年祭（三・一三）
三・一五
パリーコンミユン記念
＊これらの集中的斗争としての大音楽会開催、
＊レコード第四号吹込
＊これらを通じての組織活動

四月 カンパ 四・一六

＊メーデーの為のアヂプロ活動
＊下旬に於ける地区巡回小公演・

以上が、メーデー迄の活動プランの大綱である。吾々は、鉄の決意を以て、之を実行しなければならぬ。

一月下旬に於けるプロキノとの共同公演

一月下旬、吾々は、三Lデー斗争の主要部分として、プロキノとの共同斗争による、公同公演を計画した。

これは、反戦、反ファシズム斗争としての、三Lカンパの斗争の主要なる部分として、又、十二月音楽会に克服し得なかった、同盟の力の散いつを整備して、三月から五月の重大なる斗争に備へるものとして、重大な意義を有するものである。

吾々は過去の多くの共同斗争に於ける敗北主義を、（吾々は力が弱いから、他同盟と同様に働けない）清算して、積極的に、この斗争に参加しなければならない。

合唱団、オーケストラ班、ハーモニカ班は、直ちに準備に取りかゝれ。

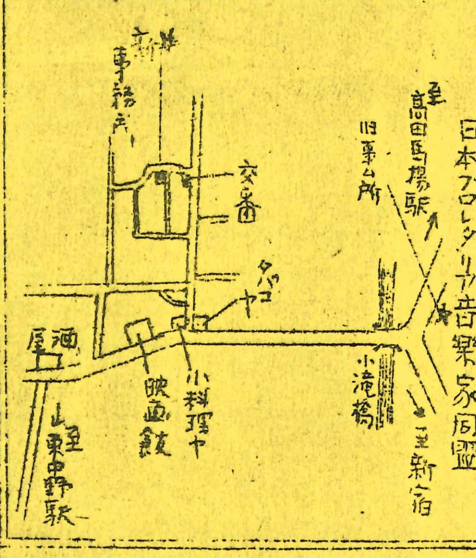
期日、入場料等、未定、

内容は、三Lデーを中心テーマとしたものである。

共同準備委員、
河野さくら　吉原澄子

事務所移轉通知

新事務所
淀橋区上落合町一丁目四八一 並木方
日本プロレタリア音楽家同盟



新同盟員及同盟加入希望者の為の短期講習会

一月中旬、新同盟員及び同盟加入希望者の為に、短期講習会が持たれる。内容は、

初歩的なプロレタリア音楽論　担当者　京 太郎
同盟の組織、及び活動について、　〃　未定
斗争歌の講習　〃　関 鑑子　新島晴子

日数は、二日乃至三日の予定である。時間は、夜六時乃至六時半より、

之は、主に、新同盟員及び同盟加入希望者の為に組織されるものであるが、其他の希望者の加入を排除するものではない。

長野地方巡回公演

一月四日頃から、左の東京支部員が、本部のプランに従って北信地方に、巡回する。予定日数、約一週間、

西川みつ子（或は、新島晴子）　河野梯（或は吉原澄子）
根 太郎　中野 秀三

以上四名

東京支部活動報告

十一月、十二月中に於ける東京支部の活動は、殆んど才五回音楽会に集中された。これに付いては才五回音楽会報告及びその自己批判の中に報告される。この音楽会に具体的に現れた九月以来の日常活動に付いて言へば、

組織活動　九月、吾々は、春以来の活動の厳密な自己批判によつて

企業、農村を基礎とする班の結成
地区組織の確立

を決議した。これらの決議は何らの具体的成果をあげて居ない。否、退歩して居る。城南地区、城東地区には殆んど何物をも残してゐない。わづかに中部に於て、若干の見るべき活動あるのみである。

原因として、以上の決議の不徹底、部長の不適任（これに対し、委員会は、最近追放化した。）、一部のメンバーの非組織活動のみに依る組織活動（吾々の運動の困難化と共に、一部の同盟員の間に根づよくきざした日和見主義的、敗北主義的傾向と、組織部の無力は、全同盟員を組織活動に動員し得なかつた。）、これらは当然、サークル数の減少、音楽への動員数の減少（春の約六〇〇に対し、二二〇）となつて現れている。

教育活動　労働者新幹部の養成、吾々の運動の困難化と共に発生する日和見主義的傾向（一度の検束によるいちぢるしい不活潑、職場、学校に対する懸念による不活潑、同盟の力の弱さから来る欠陥に対する小児病的な失望）におちいらんとする一部の同盟員の徹底的再教育、は現在の教育部の最大の任務である。

十月吾々は、これらの具体的方策として、全同盟員を若干のグループに分つて、研究会活動をおう盛にすることを決議した。こゝにも決議の無視がある。又教育部は、技術教育への関心を殆んど示さなかつた。

わづかにその活動としては、音楽理論研究会の活動がある。これは吾々に緊急に必要な音楽理論の建設者として重要な意義を有するものである。当面の任務として、ブルヂョア音楽に横行する反動的、いかさま音楽理論に対する斗争（音楽雑誌に二、三の論文として（京、音楽）現れてゐる、）、音楽史の一マルクス主義的方法による研究、を当面の課題としてゐるが、この成果を最もすみやかに広般に発表すべき義務を果してゐない。

これらの不活潑の主原因として、部長、部員一名の長期拘留をあげ得るが、これらは吾々の常に覚悟すべきことであつて、理由をなさぬものである。

財政活動　吾々の財政難が叫ばれ出したのは既に久しい以前からである。しかも今同盟財政の主要部分たる同盟費は、東京支部に於ては、現在一〇－一五％を出でない。特に地区同盟員のそれは〇％である。

この面に於ても、吾々は、十月、過去の欠陥の正しい自己批判の上に立つて次の決議がなされた。

同盟費の組織的徴収
特別同盟費の設定
維持員募集
企画活動の強化による収益

一片のアッピールや基金袋の製作のみでは解決され得ない。正しい決議の組織的実行以外に方法はない。

移動活動　度数に於ては、特に十二月中かなりの結果（七回）を収め得たけれども、その便宜主義的活動は（重要な職場からの申込と、その他とを一様に扱つたこと、日常訓練を行はず都合のい、手近に居る同盟員を、その場限りにあちこちと動員したこと、移動の組織的内容をなさなかつたこと）、鋭い自己批判を要求する。これは別記の決議として現れた。

併しながら、この部門は、才五回音楽会後、ほとんど一切の活動が停止状態にあつた時、唯一の活動をなした部門である。

企画活動　ほとんどなし、（この期間音楽会をなしたが、企画部は、ほとんど何らの参加をなさなかつた）

諸技術班　合唱団、オーケストラ班、ハーモニカ班は、いづれもメンバーの不足をかこつている。しかも新しい加入希望者は多いのだ。こんな矛盾があるだろうか。

これらの諸班は、教育部と共力の下に、初歩のメンバーをも広く包含し得る教育機関が必要である。

才五回音楽会報告及びその自己批判の中にくはしく述べられて居る如く、又真に音楽運動へのヘゲモニーを獲得するためには、最高の技術が必要である。

旧メンバーの絶えざる、技術の研磨と、進歩的音楽家の獲得が絶対に必要である。特に音楽技術修得に、多くの困難な條件を有する吾々に於て、

この為には、合唱団その他を支配する、以下の傾向が速かに改められねばならない。

低い技術と、これを克服して、技術向上へ向ふ熱意の欠除
それから来る演奏効果の粗雑さと、之への無関心的態度

これらの傾向は、吾々が当面せる幾多の困難な條件に、やむを得ざる根拠を有するとは言へ、一部の新しい技術家に、プロレタリア音楽に対する誤解を與へたことに特に注意すべきである。（プロレタリア音楽は、技術を過少評価すると、又、プロレタリア音楽は、政治運動の一形態であると）

これらの誤解は、彼らをして、自らのそれの正しき建設者への奮起とならずして、プロレタリア音楽への失望、或は、この運動からの離だつへと導いてゐる。

最后に、吾々の技術の不足は、創作家の達してゐる技術を充分発表し得ないことを報告しなければならない。（難曲の演奏放棄、創作家の意図にそはない演奏）

以上の組織活動、移動活動、及び部分的には合唱団について、大体報告中に諸点が、本部に依つても非常された。

以上は総て、個々の面から述べられたが、それらの一切は、互に関聯しあつてゐる。財政活動の不振は、他の一切の活動の沈滞の原因であり、又それは、他の一切の活動の不振に根ざしてゐる。全く同じ事が組織活動と教育活動、創作演奏活動と組織活動についていへる。これら一切は、互に関聯し合つて、今日の東京支部の状態を示したものである。

既に幾度か述べた如く、今吾々は異常の決意以て斗争に立ち上る秋である。あらゆる面に、正しい自己批判と決議があるのだ。諸決議を即時実行へ。

東京支部委員会の部分的変更

東京支部委員会は、次の如く部分的に変更された。

これは、吾々の運動の困難化と共に、之に耐へ得ない一部の委員の辞退、若しくは没落、並びに之にともなふ変更、等の事情によるものである。

河野　さくら		書記長
※	赤松　良雄	組織部長
	青木　哲	教育部長
※	片岡　久子	財政部長
※	中野　秀三	移動部長、ハーモニカ班責任者
	吉原　澄子	企画部長
	京　太郎	創作班責任者
	福田　上一	オーケストラ班責任者
	新島　晴子	合唱団責任者

以上　※印変更

移動活動に関する決議

ソヴェート攻撃戦争を前にして、（部分的には既に初まつてゐる）増々苛酷の度を加へる文化反動に対し、吾が音楽家同盟は、音楽の面に於ける、労働者、農民の広般な要求に答へ、以て、支配階級の文化反動の意義を暴露し、それらの影響から、おくれた労働者農民を切り離し、吾々の影響下に確保しなければならない。しかして之は、全同盟員の重大な関心事でなければならない。

東京支部委員会は、こゝに、この重要な任務当者移動活動の重要性を認め、今迄の便宜主義的な活動を厳密に批判し、次の事を決議した

可能な範囲に於て広般な同盟員が之に参加すること

合唱団、ハーモニカ班、オーケストラ班、創作班のメンバーを含めて若干のグループを組織し、常に出動に応じ得る様に、準備すること

日常的に、その演奏態度をも含めて技術の修練をなすこと

移動部は、それらの中心をなす事務局である。即ち移動活動に関する一切の事務を処理すると共に、移動活動の為の諸グループに対して統一的指導をなすものである。

日本プロレタリア音楽家同盟
東京支部　委員会

全同盟員諸君
出版基金に応募せよ！

同盟本部は、音楽家同盟の活動を廣汎ならしめるための機関誌の発行、レコードの発行、歌曲集の発行を実現するために、出版基金二百円カンパをおこした。同盟の中心をなす東京支部は、このカンパを努力的に斗はねばならぬ。

あらゆる移動集会で、我々は大衆的に基金を集めやう。同盟へ好意を持つすべての人々から同盟の発展のために支持を仰がう。あらゆる機会に帽子を廻さう

だが吾々は、これらの活動の外に同盟を守る同盟員として、各同盟員が特定の金額の基金を出さうではないか。このことは本部委員会に於て問題となり適当と思はれる額が全同盟員に割りあてられた。以下の通りだ。

このことは本来総会に於て、当然全同盟員の自発的意志に基いて行はるべきであるが、現在総会を持ち得ないため、委員会が案を決定した。

之に付いて諸君の意見があったら至急書記局に送れ。

金は直接書記局へ、或は班責任者へ！

期日は二月中旬である。（名前下の数字は銭）

保 三〇　河野 五〇　峯 五〇　越岡 一〇
宮 一、〇〇　山本 三〇　関 三、〇〇　宍岡 一、〇〇　赤松 三〇
新島 三〇　中野 三〇　土屋 一〇　伊藤 五〇　内田 二、〇〇
永田 三〇　高島 三〇　有澤 五〇　北見 二〇　山城 一〇
秋山 二〇　内山 五〇　斉藤(武) 五〇　三浦 五〇　小野 三〇　吉川 一、〇〇
三木 七〇　吉田 二、〇〇　今井 五〇　岩波 五〇　有田 三〇　室井 三〇　桜井 三〇
島 二〇　藤沢 三〇　小島 三〇　大橋 三〇　佐藤 三〇　徳永 三〇　谷村 一、〇〇
井上 五〇　三好 一〇　舟村 一〇　青木 一〇　近藤 五〇　津久 二〇　芝 一、〇〇
南一 五〇　長谷川 五〇　渋谷 一、〇〇　斉藤(正) 五〇　浜 一〇　木下 一〇
西川 三〇　大山 二〇　吉原 五〇　木本 一、〇〇　西 六〇　西田 五〇　高 三〇
高沢 五〇　手塚 五〇　品川 二〇　宮沢 一、〇〇

機関誌プロレタリア音楽　発行！

二月創刊号　定価二十銭

歌曲集前哨の歌　第一号　五セン　発行！

インターナショナル・憎しみのるつぼ・海山越えた・赤軍航空隊の歌・青い夜

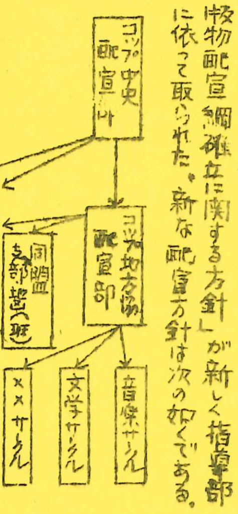
コップ出版物を読め！

プロレタリア文化
大衆の友
働く婦人
ウリトンム

吾々はP・Mの一員であると同時にコップ－各文化団体の聯盟体－の一員である。随って常にP・Mの立場に立ってのみでなく広汎な文化活動の統一的展開者としての高い見地にあることを忘れてはならない。

現在吾々は指導機関誌「プロレタリア文化」を読むことに無関心さを示して来た。或は購読希望者にも配布の方法を示し得なかった。

今吾々のかゝる状態を具体的に解決する「コップ出版物配宣網確立に関する方針」が新しく指導部に依って取られた。新な配宣方針は次の如くである。


コップ中央配宣部
コップ地方協ギ会配宣部
同盟支部班(班)
音楽サークル
文学サークル
××サークル

東京地方では、サークルへは地方協ギ会配宣部から直接配布を受ける。即時希望部数と配布責任者のアドを支部書記局へ送れ！

符盲撲滅週間の斗争へ

吾々は今、革命的危キの目前に居る。吾々は音楽の面に於て、広般な、労働者農民勤労大衆の欲求に答へ、之を通じて、その優れた層をも吾々の影響下に確保しなければならない。

この任務を良くはたすためには音楽家同盟員は音楽の良き伝達者でなければならない。

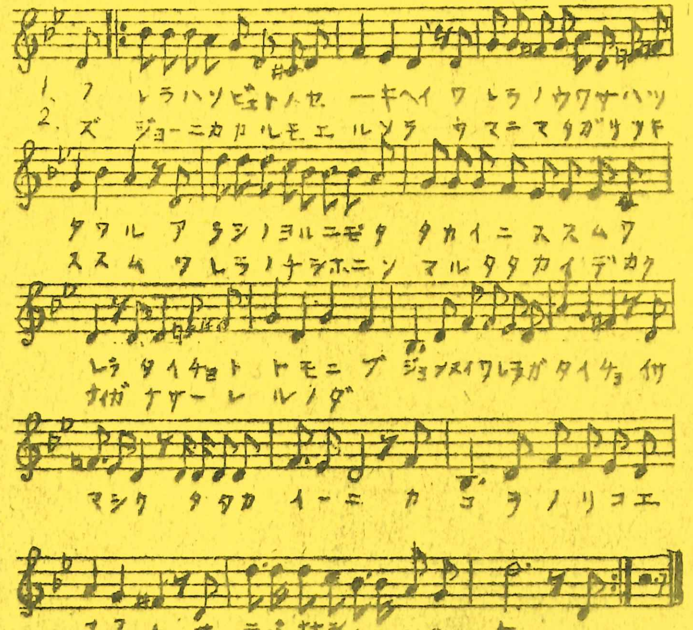
我が国に於ける特殊な資本主義（封建的な）の発展は労働者、農民に何らの音楽的教養に接する機会をあたへなかった。労働者、農民の諸君は吾々運動の展開に大いなる困難を感ずる。

働く諸君！　諸君の中に譜の読めない者は居ないか。先づそこから始めよ、次いでサークルで！

本部はこの意味に於て二月一日から一週間を譜盲撲滅週間として指令した。

あらゆる班で、サークルで譜の読めない者は読める様、読み得る者もより正確に！

ブジョンヌイ行進曲


1、ワ　レラハソビエトノセ　ーキヘイ　ワ　レラノウワサハツ
2、ズ　ジョーニカカルモエ　ルソラ　ウ　マニマタガリツキ
タワル　アラシノヨルニモタ　タカイニススムワ
ススム　ワレラノチシホニソ　マルタタカイデカク
レラ　タイチョトトモニ　ブ　ジョンヌイワレラガタイチョ　イサ
ナイガ　ナサーレ　ルノダ
マシク　タタカ　イーニ　カ　ゴ　ヲノリコエ
ススム　サ　ラバオオシクキチビ　ケ

二番ハ一番ト同ジ曲デ（ブヂョンヌイ戦草が……）カラ

編輯局より

●訂正

●本ニュース（四号）三頁「支部報告」は活動報告の誤

●一月一日発行支部ニュース二号は三号の誤

●ニュース（一月一日付）第一頁「委員会の部分的変更」の項報告の文句非常に無責任であった。あの文では旧メンバーが同盟から没落したかの感があった。同志八幸は特に個人的理由による

ニュース批判を捲起させ！

同盟員動勢

高杉驍三郎　二ヶ月間中西署に拘留されてゐた同志高杉は先月末出て来た

青柳政夫・南圭子　中野署　木本泰　戸塚署　福田上一、朴栄根　終に一月にも出なかった。